

20 小説 ギンヤンマ、再配置プロジェクト

川端裕人

1 要約のポイント 本誌で確認した事柄を整理

- 場面(自身を振り返る)

博士が、すべてを解き明かす博士にはなれず、総務部で働く自身を振り返る場面。

○状況

すごい博士になりたいと思っていたが、今はあまり夢のない仕事をしている。

○博士の心情

自分になりたいと言う息子の言葉は、正直うれしいが、同時に身が引き締まる思いであった。

2 段落要旨 空欄部分を書いてみよう

この世のすべてを解き明かしたいと考えていた博士は、いつか本物のすごい博士になりたいと思っていた。「宇宙の始まりと終わり」に興味をもつたが、高校生のとき方向転換をした。

博士にはならず大学を出、研究職に就いた。遺伝さえ解明できず、子どものころの博士がそれを知つたらなんと思つただろう。やがて異動を願い出たが、 。総務部で頼りにされている実感もあつた。

 何か月か前、夏樹に将来の夢を尋ねた。そのとき夏樹は迷わず、B、A、C、と答えた。

あまり夢のない仕事だと言いかけてやめた。とてもうれしかったのである。博士にとつて、父は複雑な感情の対象であった。だから、 を、そんなふうに見てくついてうれしい。同時に身が引き締まる思いである。